

八潮市公共施設マネジメント基本計画を公表

昨年度に公表した「八潮市公共施設マネジメント白書」では、市の公共施設の多くは整備後30年から40年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、今後、その建替えや改修などにかかる費用が増大し、大きな財政負担となることが明らかになりました。

「八潮市公共施設マネジメント基本計画」は、こうした課題に対応していくため、今後30年間という長期的な視点に基づき、公共施設の建替え・統廃合・長寿命化などの具体的な取り組み方針を定めたものです。ここで、その概要を報告します。

※八潮市公共施設マネジメント基本計画の詳細は、市ホームページおよび市内各公共施設で閲覧できます。

問アセットマネジメント推進課 ☎ 470

八潮市の公共施設の課題

現状のままでは、公共施設を維持していくためのお金が不足します(表1)

インフラ資産を含め、公共施設を維持していくための建替えや改修には、今後40年間で約1,687億8千万円が必要となり、平均して毎年約42億円が必要となります。現状では、市の財政状況と比較して保有する公共施設の総量が多く、将来にわたって維持していくお金が不足します。

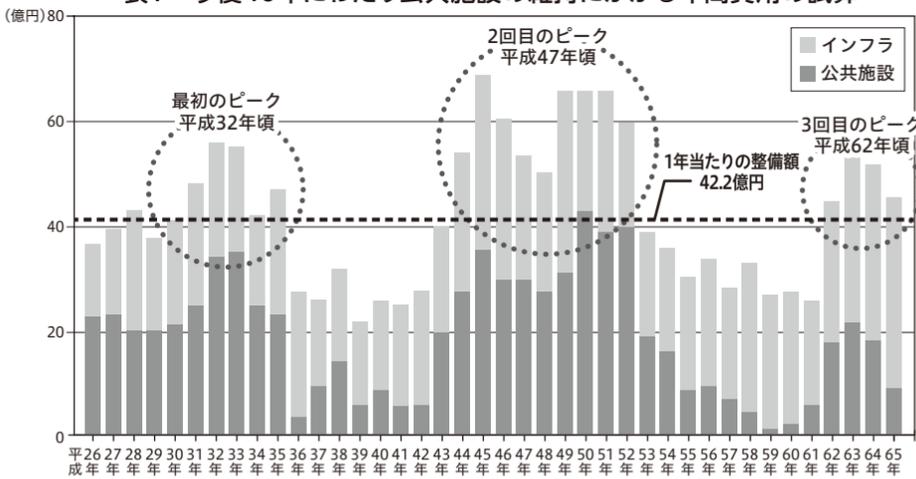
市の公共施設の利用率が低いことがわかりました(表2)

平成27年6月に実施した市民アンケートの調査結果では、市内すべての公共施設において「ほとんど利用しない」「利用したことがない」という回答が50パーセント以上を占め、利用率が低いことがわかりました。公共施設の利用において、サービスを受ける側と提供する側に差異が生じています。

バランスの取れた公共施設の配置を考えていく必要があります

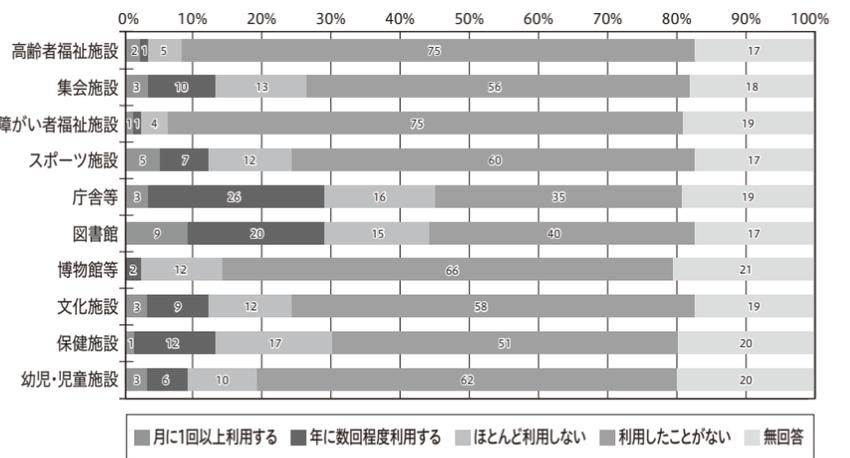
これからは、公共サービスの圏域(公共サービスが提供される範囲)を踏まえ、誰が利用するのか、どのような手段で訪れるのか、どのような頻度で利用するのかという視点で、バランスの取れた施設の配置について考えていく必要があります。

表1 今後40年にわたり公共施設の維持にかかる年間費用の試算



「八潮市公共施設マネジメント白書」より

表2 公共施設の利用状況



「八潮市の公共施設の更新及び統廃合についての市民意識調査結果」より

課題を踏まえた取り組みの原則

市の公共施設の課題を踏まえ、課題解決に向けた取り組みに関する3つの原則を定めます。

①公共施設の「量」を適正化します!

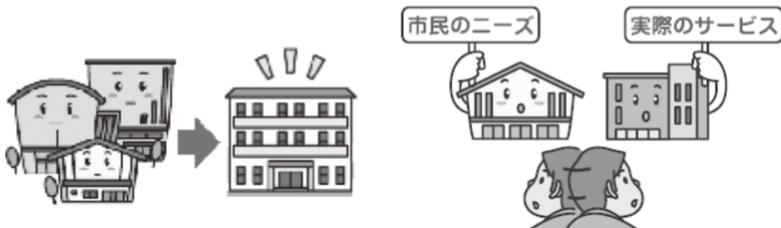
公共施設を市の身の丈にあった「量」にします。とにかく減らすというのではなく、皆さんにとって何が必要かを踏まえて、メリハリのある取り組みを推進します。

②「公共サービス」の内容を見直します!

「公共サービス」そのものを見直します。皆さんにとって真に必要な公共サービスを明らかにし、その上で必要な公共施設を整備します。

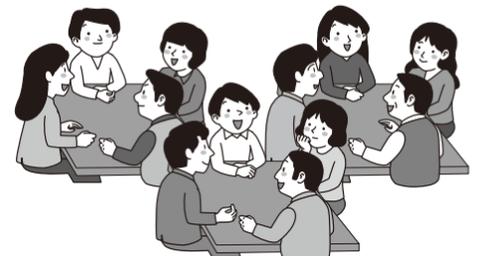
③「全体最適」の視点に基づき公共施設を配置します!

市域全体で最適な公共施設の配置を考えます。全体最適とは、1つの公共施設で複数の公共サービスを提供するなど、利用者の利便性の向上と施設の合理化が図られた状態を指します。



今後の取り組み

今後は、基本計画を実現していくための行動計画となる「八潮市公共施設マネジメントアクションプラン」の策定に取り組みます。アクションプランでは、市民ワークショップの開催など、皆さんと共にこれからの公共施設について考え、取り組みを進めていく予定です。



この結果を受け、市では、市議会の「公共施設等調査特別委員会」で意見をいただきながら耐震改修か建替えかの検討を行っています。また、耐震化のための財源を確保するため、基金(貯金)を設け、準備を進めています。今後、市民の皆さんにもご意見を伺いながら方針を決定していきます(市ホームページにも情報掲載しています)。

建物の耐震診断結果

	建築年	Is値
本庁舎	昭和46年	0.22
別館	昭和49年	0.23

※Is値は高いほど耐震性があるとされ、官公庁施設は0.75が基準となっています。
※本庁舎が被災した場合、災害対策にあたる代替施設の八潮消防署などは、耐震基準を満たしています。

現在の市役所本庁舎は、昭和46年に建設され、築45年が経過しています。本庁舎は、来庁する市民の皆さんや職員の安全確保だけでなく、防災や災害時に拠点施設としての役割を果たす、最重要公共施設ですが、耐震診断の結果、次の表のとおり、耐震基準を満たしていない結果となっています。

庁舎の耐震化に向け検討をしています

問財政課 ☎ 2322